

連載

Turbo

HAMLOGの

部屋

Turbo HAMLOG開発者
JGIMOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第15回

HAMLOGによるQSLカード印刷

本誌 2025 年 7 月号から Turbo HAMLOG/Win (以下, HAMLOG と略します) による QSL カード印刷について解説しています。 それでは, 先月号の続きです。

自局の移動運用場所を 印字する

移動運用したときの QSL カードでは, 自局の運用場所を印字しておく必要があります。

ここでは, HAMLOG の Remarks1 に自局の移動場所が書き込まれている, という前提で筆者の運用方法をご紹介します。

図1は入力環境設定で, [Remarks1保存] にレ点を入れます。これにより, 入力ウィンドウで QSO データを1件登録や内容をクリアしても, Remarks1 の内容はクリアされなくなります。

図2は, HAMLOG の入力ウィンドウです。ここで, Ctrl キーを押しながら [Remarks1] ボタンをクリックすると, 運用場所を選択入力することができます。

図2では, [%/1 埼玉県白岡市 #1346%] と入力されました。さらに手入力で“PK 埼玉県 141, 柴山沼公園”と書き加えたので, %/1 埼玉県白岡市 #1346 PK 埼玉県 141, 柴山沼公園 % という文字列が入っています。

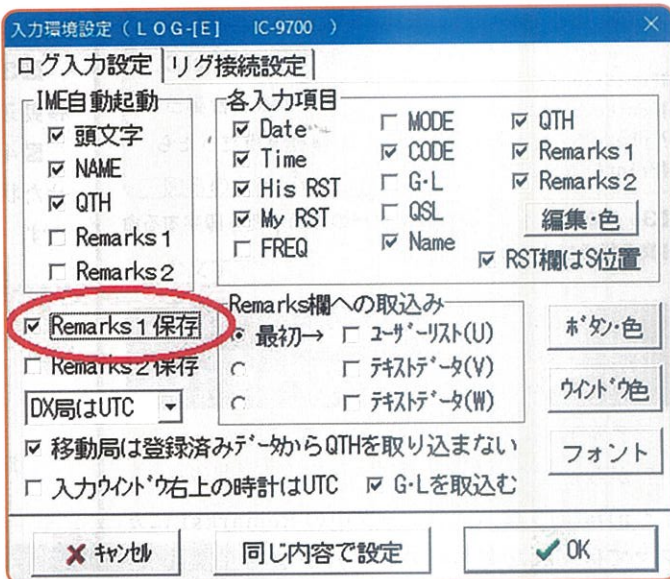


図1 入力ウィンドウの右クリックメニューから表示させた入力環境設定

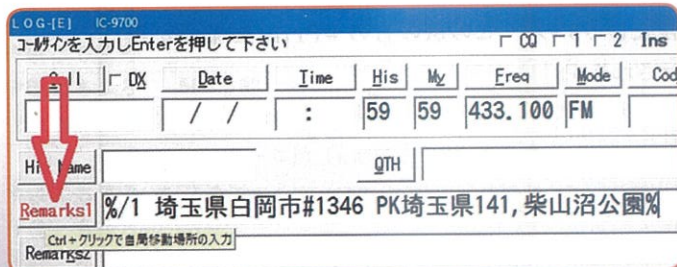


図2 入力ウィンドウで Ctrl キーを押しながら [Remarks1] ボタンをクリックし, 自局移動地を入力した状況

図1の入力環境設定で[Remarks1 保存]にレ点を入れましたので、以降の交信ではこの移動運用場所が Remarks1 に入り続けます。

QSL印刷定義ファイルを編集する

図3は、QSL印刷定義ファイルの編集ウィンドウで、本誌 2025 年 8 月号の続きとなりますが、赤い括弧の 4 行が定義ファイルの末尾に書き加えた命令文です。

#FontSize=13

#FontColor=0x00FFFF00

文字のサイズは 13 と少し大きくし、文字の色は水色としました。

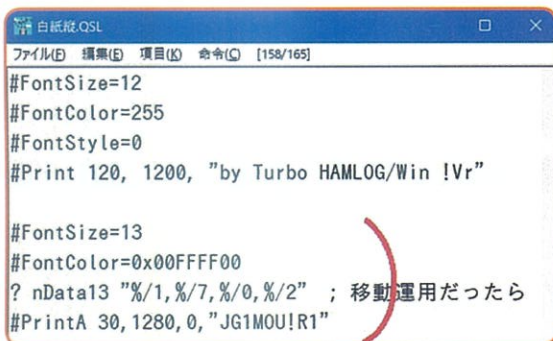


図3 定義ファイルの末尾に、自局の移動場所を印字する命令文を書き加えた状況

QSOデータ中に特定の文字列が存在するか

? nData13 “%/1, %/7, %/0, %/2”

? から始まるものは条件命令です。

? nData13 は、QSO データ中の Remarks1 にカンマで区切った文字列のいずれかが存在すれば、この次の一行を実行する、という命令です。

図2では、Remarks1 には %/1 という文字列が存在しますので、この次の行の #PrintA 命令が実行されます。

これを ? nData14 とすると、Remarks2 を指定することになります。? nData1 がコールサインで ? nData2 が日付、? nData14 まであり、それぞれ特定の文字列を検索します。

? から始まる条件命令はたくさんありますので、詳しくは F1 キーを押してヘルプをご覧ください。

#PrintA 命令について

#PrintA 命令の構文は次のとおりです。

#PrintA 横座標, 縦座標, 行間幅,
“印字文字列”

#PrintA 命令では、文字列が長くて用紙からはみださないよう、自動的に改行して印字してくれます。

#PrintA 30, 1280, 0, “JG1MOU!R1”

図3では左から3ミリ、上から128ミリの位置に、改行幅は最小で筆者のコールサインと移動場所を印字します。

改行したときの改行幅は 0.1 ミリ単位で指定します。ゼロが最小です。それ以外は、#Print と同じです。

!R1 は、Remarks1 の中の % で括った文字列の、
/1 埼玉県白岡市 #1346 PK 埼玉県 141,
柴山沼公園

に置き換わります。

図3の場合、自局が 1, 7, 0, 2 エリアいずれかの移動運用だった場合に、移動場所を印字します。

図4は、Ctrl + I キーを押してイメージを表示させた状況です。写真の上に移動場所が印字されています。



図4 写真の上に自局の移動運用場所が印字されている

明示的に改行して印字する

#PrintA 命令では、文字列中に
という文字があれば、その位置で改行します。

図5の入力ウィンドウのRemarks1には、途中に
が入っています。

Remarks1 %/1 栃木県日光市#1506
湯468, 日光湯元温泉 JP-0010%
Remarks2

図5 入力ウィンドウで、Remarks1欄に改行を示す
を入れた状況

図6 Remarks1の文字列が
の位置で改行して表示された状況

図6は、Ctrl + Iキーを押してイメージを表示させた状況です。図5でJCC番号の次に
が入っていますので、その位置で改行しています。

移動運用のRig/Antをバンドごとに印刷する

筆者の場合は、QSL印刷定義ファイルを常置場所にも移動運用にも使えるようにしています。

図7は、リグやアンテナなどの設定ウィンドウです。

図7の右端の列にはEtcという欄があります。ここに50M移動などの文字列を目印として書き込んでおき、移動運用だった場合はこの文字列が存在する行のリグやアンテナが印字されるようにしています。

図8がその定義ファイルです。図8の概要ですが、

図8の1行目 ? Freq 3

3は7MHzの指定で、7MHz帯の交信だった場合に次の1行を実行する条件命令です。

図8の2行目 ? nData13 “%/1,%/7,%/0”

Remarks1に%/1, %/7, %/0のいずれかの文字列があれば次の1行を実行する条件命令です。

図8の3行目 #Rig=7M 移動

図7のEtc欄に7M移動という文字列がある行のリグやアンテナなどを読み込む命令です。

つまり、7MHz帯の交信データで、かつ、1エリア、7エリア、または0エリアでの移動運用だった場合、図7の7行目のリグやアンテナを印字する、ということになります。

これらは、リグやアンテナを印

図7 QSL印刷用の自局のリグやアンテナなどを登録しておくウィンドウ

No	Freq	Rig	Power	Ant	High	Rmks	cat	Etc
1	7	IC-7410	50	逆V-DP	15	今後ともよろ		
2	144	IC-9700	50	17エレ×2	19	今後ともよろ		
3	3.5	IC-7410	50	逆V-DP	15	今後ともよろ		
4	50	IC-7300M	50	2エレ位相結	6	今後ともよろ		50M移動
5	430	IC-9700	50	G P	13	今後ともよろ		
6								
7	7	IC-7300M	50	V型DP	5	今後ともよろ		7M移動
8	144	IC-9700	50	3エレシンク	6	今後ともよろ		144M移動
9	430	IC-9700	50	6エレシンク	6	今後ともよろ		430M移動
10	1200	IC-9700	10	G P	13	今後ともよろ		

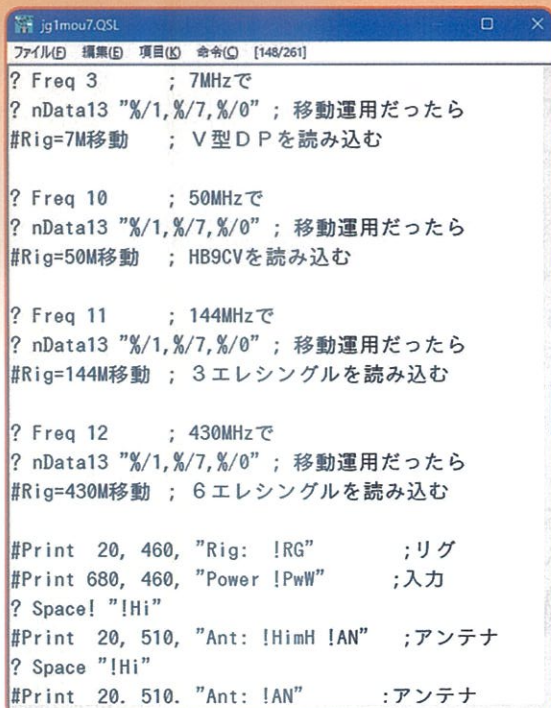


図8 筆者の定義ファイルの一部。移動運用だった場合には各バンドで指定した移動用のリグ・アンテナを印字する命令

字する命令よりも上の行に記述してください。

? Freq の数字は、各バンドを示す数値です。
バンドごとの数値は、次の表のとおりです。

1.9MHz=1	3.5MHz=2
7MHz=3	10MHz=4
14MHz=5	18MHz=6
21MHz=7	24MHz=8
28MHz=9	50MHz=10
144MHz=11	430MHz=12
1200MHz=13	2400MHz=14
5600MHz=15	SATELLITE=16
10GHz=18	
その他または認識できないバンド=17	

図9は、この定義ファイルによる筆者の QSL 印刷イメージです。

条件命令の次に 複数行の命令を記述したい場合

? End 命令を記述します。例えば、



図9 筆者の定義ファイルによる印刷イメージ

? Potbl ; 相手局が移動運用だった場合
#Print 30,210, “移動運用お疲れ様です。”
#Print 30,270, “!QT 有難うございます。”
? End ; 条件命令終わり
; !QT は、相手局の QTH に置き換わります。

? End 命令は、条件命令の終わりを指定します。
これにより ? 条件命令 と ? End の間に、複数の命令を記述できます。

長い文章を印字したい場合

QSLカードには、アワードの紹介や地元出身の偉人など、長い文章を書きたい場合があるかも知れません。

図10は、図6の富士山の写真を無効にし、下の方の赤い括弧の部分に #Text 命令を書き加えました。

#Text 命令では印字開始位置を指定し、#Text から #End までの間に長い文章をそのまま記述することができます。構文は次のとおりです。

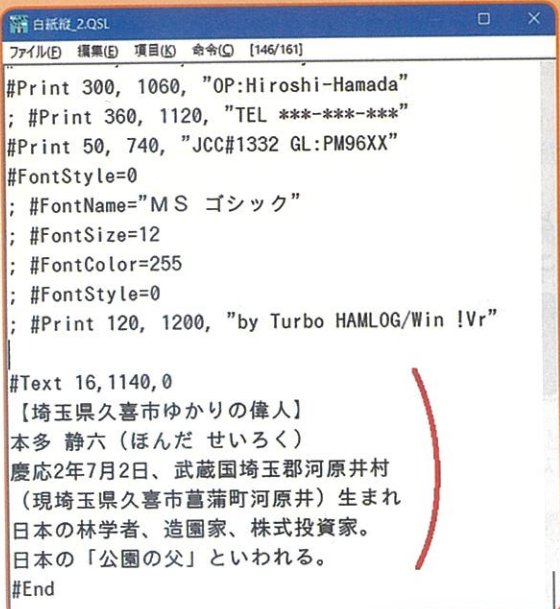


図10 定義ファイルの末尾に #Text 命令で複数行の文章を記述した状況

#Text 横座標, 縦座標, 行間隔
複数行の文字列
#End

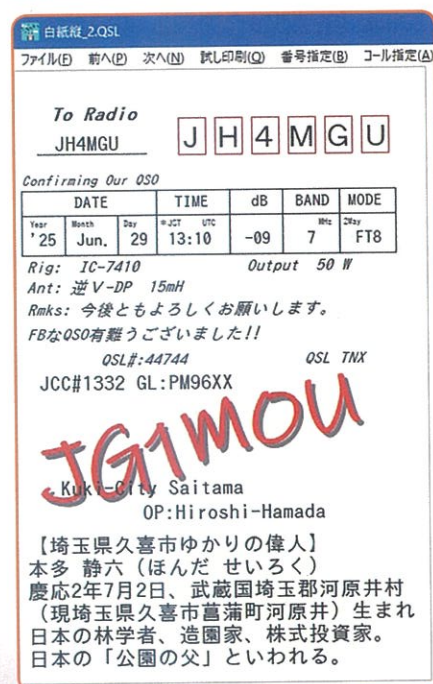


図11 QSLカードに地元ゆかりの偉人を印字した状況。筆者は、公園での移動運用（POTAやPK）によく行くので、「公園の父」といわれる地元ゆかりの偉人を表示してみました、hi

図11は、Ctrl + Iキーを押してイメージを表示させた状況です。定義ファイルに書いたとおりの文章が、そのまま印刷されます。

JARL 非会員などに対する QSL印刷を抑制する 機能

本誌 2024 年 10 月号で「JARL 非会員などの QSL カードが転送できない局あてには QSL 印刷をしない」機能をご紹介しました。

これは、QSL 転送が可能な局リストを組み込むことにより、JARL 非会員など QSL 転送ができない局あてには QSL カードを印刷しない、という機能です。

図12は、QSL印刷ウィンドウですが、①の赤い線の部分に表示されているファイルが、QSL 転送が可能な局のリストです。

このファイルは、①の「JARL.mDAT 最新版の確認」ボタンによりインターネット経由で組み込むことができます。

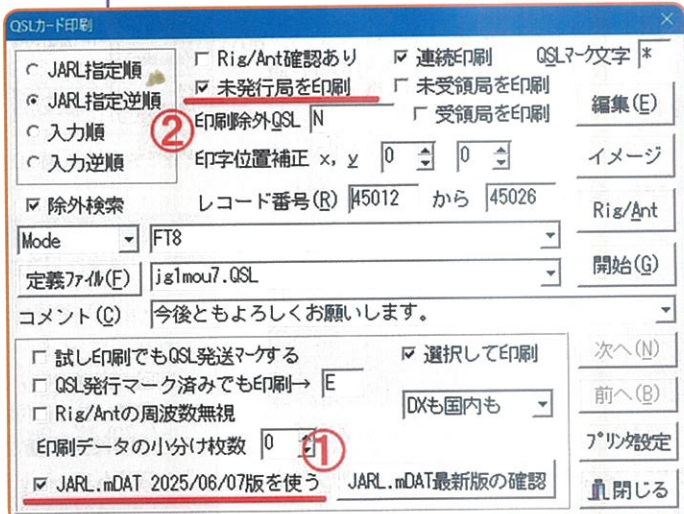


図12 QSL カード印刷のウィンドウ

ワンウェイ希望局あてには QSL印刷しない

JARLでは「QSLカード受け取りを希望しない局リスト」への申込を募集しており、JARLホームページのトピックスから見るができます。

URLは次のとおりです。

https://www.jarl.org/Japanese/5_Nyukai/qsllist.html

これは、「QSLカードは発行するが、自局あてにはQSLカードを必要としない局」が一定数存在しているため、JARLのQSL問題対策委員会で検討したものです(筆者も同委員会の委員です)。こうした、いわゆる「1Way発行局」のコールサインリスト(QSLカードの受け取りを希望しない局リスト)を追加で作成し、ログソフト等の開発者に提供することにより、QSLビューローの負荷軽減を図ることを目的としたものです。

HAMLOGではVer5.46(2025/03/29)からこのリストに対応しています。

図12のQSL印刷ウィンドウでは、①の「JARL.mDAT 2025/06/07版を使う」にレ点が入っています。

この6月7日版のJARL.mDATファイルから、QSL転送が可能な局に加え、QSLカードの受け取りを希望しない局も含まれています。

実際にコールサインを 入力してみる

図13は、HAMLOGの入力ウィンドウで、筆者のコールサインを入力した状況です。

入力ウィンドウの上部、タイトルバーには、

JG1MOU [JARL.mDAT 2025/06/07版]

と表示されており、6月7日現在でQSL転送可能なJARL会員であることがわかります。

図14は、「大阪・関西万博記念局 JA3XPO」を入力した状況です。

入力ウィンドウの上部、タイトルバーには、

JA3XPO (JARL.mDAT 2025/06/07版
1Way局)

と表示されており、いわゆる「1Way発行局」であることがわかります。

記念局のように 最初からQSLカード発行済み扱いとする

図14、入力ウィンドウ右端のQSL欄にはJNと入力され、QSLカードを印刷しないよう、コールサイン

LOG-[A] IC-7410 JG1MOU [JARL.mDAT 2025/06/07版]

1st-QSOです

Call	DX	Date	Time	His
JG1MOU		25/07/08	15:47J	59

図13 筆者のコールサインを入力した状況

LOG-[A] IC-7410 JA3XPO (JARL.mDAT 2025/06/07版 1Way局)

2回目のQSOです (QSL未受領)

Call	DX	Date	Time	His	My	G-L	QSL
JA3XPO		25/07/04	15:46J	59	59	7.	JN

His Name: QTH: 大阪府 Clear

Remarks1: NextLOG

Remarks2: 一般社団法人日本アマチュア無線連 Save

図14 万博記念局 JA3XPO を入力した状況

環境設定

設定1 | 設定2 | 設定3 | 設定4 | 設定5 | キー割当 | 7. 妙'ウ | 設定6 |

タイトル(T) 無線局免許状~令和10年2月29日まで有効

入力ウィンドウ ☒ B ☒ C ☒ D ☒ E ☒ F フォント変更

☒ 前回の交信内容から氏名をコピーする

☐ 最終データの日付時間をコピーする 日付/Cf除外 N

☒ このRSTを初期値とする => 59 行間隔指定 8

☐ システムフォントを使う ☐ 過去のQSOからQTHをコピー

☒ QSL欄の初期値とする => J ☒ 前回交信のQSL欄をコピー

QSL発行済みとするPrefix: 8J, 8K, 8M, 8N, 1WAY=N

☒ 599形式指定: SSB, FM=5*; CW, A1, RTTY=5*9; SSTV=5*5

このデータ後の交信局数を表示 => 41252 <色> グリッド色

☐ コピー欄で[Esc]を押すと閉じる ☒ ワッチデータを使用する

☒ サフィックス・サーチは(V), (W)も実施

☐ サフィックス・サーチはCALLのみ表示

OK キャンセル

図15 環境設定の[設定1]タブ (Ver5.47a からレイアウトを少し変更しました)

ン入力と同時に QSL 発行済み扱いとなっています。
これは、HAMLOG Ver5.47a (2025/07/10) から
装備した機能です。

図15は、HAMLOG Ver5.47a の環境設定 [設
定1] タブです。

[QSL 発行済みとする Prefix] の欄には記念局
のプリフィックスのほか“1WAY”と入っています。

ここに“1WAY”と入れておくことにより、記念局
以外に、いわゆる「1Way 発行局」のコールサインだっ
た場合でも QSL 欄の2文字目に“N”が入り、コー
ルサイン入力と同時に QSL カード発行済み扱いと
し、QSL 印刷から除外することができます。

なお、[QSL 発行済みとする Prefix] を空欄にし
てから [OK] ボタンをクリックして保存し、HAMLOG を再
起動させると図15のように“8J, 8K, 8M, 8N, 1WAY
=N”と入りますのでお勧めです。

QSLカードを印刷しなかったリスト

図16は、筆者が直近の
1,000 交信を QSL カード印
刷した結果のリストです。

図16 1,000 枚の QSL カード
を連続印刷してみた結果、印刷を
除外されたリスト



※QSL印刷除外リスト (JARL非会員+)									
+ 編集 表示 H1 11 B I 12 13									
※QSL印刷除外リスト (JARL非会員+ 会員局名録非掲載) ◎=転送不要会員									
44815	DUU	25/07/05	10:51J	7.042	FT8				
45006	WVU/P	25/07/06	11:57J	7.042	FT8	via			
44719	FYS	25/06/27	17:30J	7.042	FT8				
44735	EVE	25/06/27	17:53J	7.042	FT8				
44387	DBP	25/05/30	16:17J	7.041	FT8				
44494	KAG	25/06/10	09:03J	7.041	FT8				
44375	GWO	25/05/30	15:58J	7.041	FT8				
44227	GWO	25/05/29	15:18J	7.042	FT8				
44674	GLB	25/06/19	10:16J	7.041	FT8				
44379	KSL	25/05/30	16:03J	7.041	FT8				
44994	UYB	25/07/06	11:41J	7.042	FT8				
44630	◎JA3XPO/P	25/06/17	13:09J	7.042	FT8	via			
44673	MYP	25/06/19	10:15J	7.041	FT8				
44072	NXM	25/05/18	14:16J	7.042	FT8				
44463	QLZ	25/05/31	14:11J	7.041	FT8				
44218	ELS	25/05/29	15:09J	7.042	FT8				
44601	XWN/P	25/06/12	12:34J	7.043	FT8	via			
44798	IHG	25/07/05	10:31J	7.042	FT8				
44063	IHG	25/05/18	14:06J	7.042	FT8				

これは、あえて図12の QSL カード印刷ウィンド
ウの② [未発行局を印刷] のレ点を外し、QSL カー
ド発行済みの局であっても印刷する、ノー QSL は
印刷しない、という設定でプリンターから用紙を抜
いて実行しました。

図16では、No_JARL.TXT ファイルがメモ帳で
表示されています。

これは、JARL.mDAT ファイルにより QSL 印刷
から除外されたリストで、19 局が印刷を除外されて
います。

図16の1行目にありますように、QSL印刷の対
象外だったのは JARL 非会員と JARL 会員局名録
非掲載の局で、◎印が付くのはいわゆる「1Way 発
行局」です。

◎JA3XPOと表示されていて、図15の環境設定
に“1WAY”の指定がなくても印刷対象外とするこ
とができます。

それでは、次号に続きます。

◎◎

Column

HAMLOG による QSL カード印刷の定義ファイルは、HAMLOG E-Mail QSL (通称 hQSL)
による電子 QSL 作成の定義ファイルと命令関係が概ね同じです。

ただし、位置を指定する単位が HAMLOG では 0.1 ミリ単位、hQSL ではピクセル単位ですので、
そのまま相互に使えるわけではありません。

HAMLOG も hQSL も、付属の定義ファイルを改変してお好みの QSL を作り上げていただければ
幸いです。